



## 『日本でびっくりしたこと』

ツイ ショオフィ  
崔 暁暉（中国・天津市出身）

皆さん、こんにちは。私は<sup>ツイショオフィ</sup>崔暁暉と申します。甘栗で有名な中国天津から、ことしの4月に参りました。日本語学校の留学生です。今日は私が日本でびっくりしたことを話したいと思います。

私は日本のアニメが大好きで、中国語の字幕付きですが、大学時代からよく見ていました。日本へは2回来たことがあります。日本のことはアニメや旅行で知っていましたが、今回日本に住んでみてびっくりしたことを四つほど話します。

まず、一つ目ですが、私は3階建てのアパートの3階に住んでいます。このアパートにびっくりしました。一階のドアの鍵を開けると、すぐ靴を脱いで上がる階段があります。ここに私たちだけが使う靴箱があります。そして、両側が壁の階段を3階まで上がると、また部屋のドアがあります。この部屋のドアがあるのにびっくりしました。この話を日本人に話したら、同じようにびっくりしていました。

引っ越して二日目、日差しが強くて目が覚めました。8時ごろかと思いましたが、まだ5時でした。中国との時差は1時間です。そんな強い太陽は信じられませんでした。天津は日本の秋田県くらいの位置ですが、二つ目のびっくりは太陽の強さです。

それから、2か月過ぎて、窓を開けて寝る季節になりました。毎朝、私が起きる音は、スマホのアラームではなく、鳥の声です。鳥が飛んでいたり、「カーカー」鳴いたりしているのは、アニメでよく見ていました。冗談かと思いました。まさかの本物です。私の出身地では、あまり鳥を見たことがありませんでした。日本の鳥が大きすぎです。ちょっと怖いです。家から駅まで歩いていると、よく頭の上を鳥が飛んでいます。鳥が道の上にいる時、私は「お邪魔します」と言います。鳥が隣の家から屋根に止まる時「お帰り」と言います。三つ目のびっくりは、鳥の声と大きさです。

四つ目のびっくりは、夫と居酒屋に行ったとさのことです。メニューを見たら、ほとんどカタカナで書いてあったのでびっくりしました。スマホで調べて注文しました。日本酒も注文しました。日本酒を持って来た店員さんが小さなお皿の上にグラスを置いて、グラスの中にお酒を入れました。グラスからお酒がこぼれましたが、店員さんは入れるのをやめませんでした。そして、グラスからお皿の上にお酒がこぼれていっぱいになった時、店員さんは入れるのをやめました。グラスからお酒がこぼれても注ぐのをやめないのがびっくりしました。「お皿のお酒も飲めますか?」と夫に聞きました。夫がグーグルで調べました。「飲めます。これはサービスです」と言いました。このサービスはとてもいいです。

日本で暮らしてまだ半年ですが、これからもいろいろな体験を通して、びっくりがあることを楽しみにしています。私のスピーチを聞いてくださってありがとうございました。





## 『日本の見聞や感想などについて』

ゴ 呉 エイナ（中国・広東省出身）

初めまして、私は、2019年に中国の広東省から東京に来ました、ゴエイナです。今日は日本で私の子育てについて、お話ししたいと思っております。

私には二人の子供がいます。3歳の娘と1歳の息子です。ママとして日本で暮らしてもうすぐ四年目になります。少しずつですが、東京の生活にも慣れてきました。日本は子育て中のママたちにとっては素晴らしい所だと思います。自分にとって日常生活の中で大切な場所は三つあります。

まずは図書館です。町ごとに図書館があります。そして児童図書館もあります。それはすごく素晴らしいところだと思います。赤ちゃん向けの絵本も沢山あります。いつも絵本を借りてうちで読んでいます。自分の日本語の勉強にもなります。また、図書館には便利なサービスもいろいろあります。例えば、葛飾区のほかの図書館の本を借りたい場合、予約したい図書館を選ぶと、本が送られてきます。これはとても便利です。

つぎは公園です。子供にとって毎日の日光浴、屋外運動に最適です。いろいろな公園があちこちにあります。平日はよく子供を連れて近くの公園に散歩に行きます。週末は家族全員で遠くの公園に遊びに行きます。たくさん思い出を作ることかできました。わたしか1番よく行ったのは新小岩公園です。新小岩公園には木が多いし、芝生もあるし、面積も広いです。そこで私は子どもたちに絵本を読み聞かせたこともあります。公園に行くとみんなの笑顔がよく見られます。

そして三つ目は児童館です。最初のころ、児童館のことを知らなくて、夫が仕事で家にいない間、すごくしかったです。幸い児童館を知ったあと、いっぱい遊びに行きました。児童館にはたくさんのおもちゃがあって、いろんなイベントもあります、子供と一緒に歌ったり、踊ったりして、たまにお祭りもあって、本当に楽しかったです。今は新小岩駅近くの「にこわ新小岩」によく通っています。児童館の隣に自習室もあります。日本語の勉強にもよく利用しています。

ママたちにとって子育ては大変であることはみんな同じだと思いますが、ストレスを溜めない子育て法を見つけるのが一番大切だと思います。

ご清聴、ありがとうございました。





## 『私から見た日本のお冷文化』

テイ リクン  
丁 俐君（中国・山東省出身）

皆さんこんにちは、テイ リクンと申します、中国の山東省から参りました。2018 年 10 月に留学生として来日し、今は日本語を勉強する学生で、知恵塾に通っています。本日の スピーチテーマは『私から見た日本のお冷文化』です。どうぞよろしくお願い致します。

昔の日本は中国の文化をさかんに取り入れ、今は食べ物・文化などでの結びつきが中心です。距離的にも近く、同じ漢字文化圏の出身で、季節ごとのイベントもなんとなく似ていますが、実際に違う色々な文化があります。

今日は一見同じように見えますけれど、実態はかなり異なる日本人と中国人の飲食文化の例を一つ取り上げ、自分の経験に合わせながら、お話していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

日本に来たこの 4 年間の間で、一番異文化を感じさせられたことはどんなことですかと聞かれますと、やはり日本の飲食店で氷の入った水を飲むことです。

中国では東洋医学の考え方から冷たいものを体に取り入れることを好まない人が多いです。そのため、夏でも多くの人は冷たい飲み物は避け、常温もしくは温かいものを飲みます。

特に温かい水の方が「体にいい」「体を冷やしては良くない」といった古い時代からの考えに強く影響された自分自身も最初どうしても日本のお冷の文化が理解できませんでした。

そして疑問を抱いていた私はその後何回かレストランに入って冷たい水が出された時、「なぜ飲食店では年中冷たい水を客に出すのか」「熱い料理に氷の入った水の組み合わせ は本当に大丈夫ですか」と店員に質問を投げかけましたが、結局「変な客だ!」という目でジロリと見られてしまいました。

なぜ日本人がお客さんにお湯ではなく、冷たい水を出すかとその理由がわかってきたのはつい最近のことです。一か月ぐらい前に、一緒に食事に行った日本人の友達が教えてくれました。彼の話によると、製氷技術が発達していなかった昔の日本では氷は高級品とみなされ、冷たい水が大事なお客様をもてなすためのものとされていました。その名残で、今でもお客さんに対する最高の誠意と礼儀を示しているものだといわれ、珍しい物でお客さんをもてなすという日本文化の表れとも言えるそうです。

今思えば、その頃なんかいつもつまらない問題に頭を悩ます自分のことも可笑しいです。

国によって文化・風習やマナーの違いは驚くほどたくさんあります。また、時間が経つとともにそれらは確実に変化していきます。今まで自分が経験してきた様々なことも、数年たてば通用しなくなっているかもしれません。ですから、自分が正しく、相手がおかしいという発想は禁物で、逆に相

第28回かつしか国際交流まつり「外国人による日本語スピーチ大会」

手の立場になって考えることが異文化理解を深めることができます。「おもてなし」も日本のお冷の文化もそういうことではないでしょうか。

以上です ご清聴ありがとうございました！





## 『日本生活の体験談』

リン シュン キ  
林 俊輝（中国・福建省出身）

みなさんこんにちは、中国から参りました林<sup>リンシュンキ</sup>俊輝です。今年 16 歳です。私の実家は中国の南にあって、福清という町です。海に面し、豊富な魚介類に恵まれることで有名です。

自分の母が日本に 10 年近くも住んでおり、小さい頃から日本の伝統文化や日本製品の話聞いて親しみを感じていました。日本についてさらに深く知りたいと考え、13 歳のとき、日本へ来ることを決意しました。

勿論外国人の私にとって日本で生活を始めたばかりの時は様々な苦勞があったけれども、あきらめずに頑張っていました。最初日本に来た時、日本語会話はおろか、挨拶すらできなかったんですが、知恵塾の先生方のおかげで、段々日本語が話せるようになってきました。

今通っているこの塾では、去年約 20 名の外国人が新入生として入りました。その時もう高校 1 年生であった私は、彼らのサポート役をしていました。彼らのほとんどは、語学力が低く、緊張していました。それが原因となり、部屋に閉じこもる人ばかりで心が痛みました。そこで私は、通訳をしながら、みんなが明るくなるようなきっかけを与えました。例えば、塾の教室を利用して、「ミニ日本語教室」を開いたことです。自分の名前を日本語で書いて、嬉しそうに見せ合っている学生たちの顔は今でも思い浮かびます。

日本生活とは語学の勉強ばかりではありません。中国では、学生としてのバイト習慣があまりないので、好奇心旺盛な私は新しい環境でも臆せず飛び込みたいと思い、今年の 4 月にコンビニエンスストアのバイトに挑戦しました。始めた当初はわからないことばかりでしたが、仕事に慣れてくるとお客さまの様子を観察する余裕もでき、ある時オーナーに商品 POP を掲示することを提案したところ、新商品の売り上げアップにつながりました。そのため、今でもすごくバイト先の人に可愛がってもらっています。みんなは家族のように仲良くなっています。時々バイトしている時に店長から「お腹が空いた?後で何か食べ物あげようか?」とよく聞かれます。休みのときもいつもみんなと一緒に何処かへ遊びに行きます。

また、最近商品の値上げに伴い、新しいレジを導入することになった際には、新システムに興味のあった私が、高齢のオーナー夫婦と一緒に業者の説明を受けたいと申し出ました。今では店舗で一番新システムに詳しくなり、オーナーにもほかのスタッフにも頼りにされています。

日本に来てあっという間に 3 年間も経ってしまいました。日本での生活は母国より寂しいと思うはずなのに、実際はそうではありません。逆に楽しいと思います。来る前はこんなに温かい人達と一杯出会えるとは思いませんでした。この思い出は一生忘れません。ここでの生活が終わっても、みんなとの縁はまだ続くと思います。これから、どんなに困難があっても、きっと乗り越えていけるだろうと思っています。

以上です ご清聴ありがとうございました!





## 『日本での生活』

リュウ ケンシン  
劉 建新（中国・江西省出身）

私は今年の 6 月に日本に来た中国人留学生です。

皆さんもご存じのように、コロナは人々の生活に大きい影響を与えました。たとえば、学生とえばオンライン授業、社会人と言えぱリモートワーク、外国人に関係するものと言えぱ水際対策の強化と緩和などです。

否めないのは、コロナ前にはあり得ないと思われた事象が、現在に至って日常になりつつあることでしょう。こういう時期に日本に留学して大変なこともあります、コロナ時代だからこそわかるような経験もあります。そこで、コロナ禍に日本に来て気づいたことを皆様と分かち合いたいと思います。

まず一つ目は、日本語の勉強に関する気づきです。

私は日本に来る前に、すでに中国でオンライン講座などの勉強を通して、日本語能力試験一級に合格しました。そのため、日本での生活に支障がないぐらい、日本語ができるとしていました。しかし、日本に来てから、相手の日本語をよく聞き取れないことが時々ありました。たとえば、コンビニで買い物をする時に店員さんの話をうまく聞き取れなくて、何度も繰り返し聞いてしまいます。

そういう時は本当に申し訳なく思います。日本語の勉強がまだ足りないということも確かですが、もう一つの原因は、コロナ禍でみんなマスクをつけていて、さらに会話相手との間にアクリル板も立ててあるので、相手の声と表情が伝わりにくいということではないでしょうか。

かって私は、外国語の強は言語そのものだけの勉強だと思っていましたが、コロナ禍での経験を通して、コミュニケーションをする時の声のトーン、表情、しぐさなどの大切さが分かりました。今後は日本語の語集、文法などだけではなく、こういった副言語も含めて、より自然な日本語を話せるように頑張り たいと思います。

二つ目は、異文化理解に関する気づきです。

中国と日本は地理的に近いですが、文化において異なるところがたくさんあります。たとえば性格ですが、日本人にとっては控え目な態度が大切で、中国人にとっては情熱的なほうが好まれる傾向があります。

以前、日本人がインタビューで「声が大きくてうるさい」と中国人に対する印象を述べていました。一方で、私は中国人として日本語を勉強する時にも、「敬語がめんどくさい」などと思ったりしました。

また現在、全世界が一斉にコロナと戦っている中、国によって対策も大きく違ったりします。

周知の通り、中国は「ゼロコロナ」を徹底していますが、日本はそれほど厳しい行動規制を設けていません。コロナという課題に対して、正解は一体何かはまだ誰にもわかりませんが、各国は自分の文化に適する対策を講じていることがわかります。中国は国民全体の健康を第一に考え、日本は国民一人一人の自由、人権などを尊重していることから、それぞれの対策を決めたのではないのでしょうか。

こうして、私はコロナ対策の違いを考えることによって、かつて「敬語がうるさい」と考えたことは、異文化理解ではなく、自分の文化の価値観を元にして異文化を評価しているだけだと反省しました。異文化理解というのは、異文化に対して自分が馴染んだ規則で評価するのではなく、きちんと心からその成り行きを理解することか大切だと借りました。

以上、私がコロナの中で、日本に留学しに来てからの気づきです。

私は日本語を勉強するためだけに留学に来たのではなく、日本と中国の異なるところに気づき、お互いに理解することを通して、文化の多様性を楽しみたいと考えます。

ご清聴ありがとうございました。





## 『面白い考え方』

牧田 叢 (中国・新疆ウイグル自治区出身)

中国と日本はアジアの東に、太平洋の西にあって、昔からの友好的隣国です。そのため歴史や文化背景の似通った所が多いです。しかし共通点が多いばかりではなく、様々な点で異なるところもあり、とても面白いです。例えば考え方について比べてみたら実に面白いと思いました。

例えば日本人は一般的にタバコをもって客を接待することはありません。お客の前でタバコを一本くわえ火をつけた後、1人で吸い出します。そして余ったタバコを何事もなかったようにしまうか、或るいは机の上に置き、全く相手には勧めません。このことは中国人には全く理解できませんが、実際、これは正に日本人と中国人の考え方の異なる所です。彼らは次のように考えます、自分はタバコを吸えるけれど、相手は吸えるとは限りません。自分の好きなタバコが相手も好きだとは限りません。

中国人ははっきり言うのを好みます。「明日万里の長城へ行きましょう」と言うのに対して、日本人は「明日万里の長城へ行きませんか」と婉曲表現を好みます。中国人は言葉のやりとりで最も重要なのは相手に自分の意思を伝えることだと思っています。このため直接言うのは最も良い方法です。しかしながら日本人はそうではありません。人に無理強いすることをいつも恐れているからです。相手が行くにしる、行かないにしる自分には責任はありません。というのは自分は、行きませんか、と尋ねただけだからです。

どの民族も皆形式と実質の結びつきを重視します。中国と日本も例外ではありません。しかし比べてみると、日本人の形式に対する重視は中国人をはるかに上回っています。日本人の押し入れの中は乱雑に物が置かれているとしても、部屋の中、特に和室はほこり一つなく、とても清潔で綺麗です。

一般的に日本人の食生活は豊かで種類もたくさんあります。毎食使う食器の多さは恐らく世界で一番でしょう。二切れ三切れの漬物も小皿の中に置きます。口だけで食事をするのではなく、目も用いるのです。豊富な種類、美しい食器は一種の食文化の雰囲気をかもしだし、人々の食欲を高めます。しかし何品かの料理には箸をつけない時もあります。

そして中国人の家にお客として行った時、主人はお茶、タバコ、飴等を勧めてくれるでしょう。コップ一杯にお茶をつぎ、タバコは一本一本と手渡し、飴はひとつかみ、ひとつかみと渡してくれます。

日本人の家にお客として行った時、主人は湯呑みに 3 分の 2 くらい入れたお茶を両手で渡し、一口で食べられる日本のお菓子を小皿に載せて出します。あなたがいとまごいをする時、その家の奥さんが先に前を駆けていき、あなたの靴をそろえて、再三再四お辞儀をします。まるであなたが彼女の家で何か大変な手助けでもしたかのようです。



### 細く長くと太く短く

ある日本人の友達が簡単で生き生きとした比喻を用いました。人生はあたかも一本の棒のようであり。日本人は短くて太いのが好きです。中国人は細く長いのが好きですね。この比喻には道理があります。

中国人はよくこう言います。『死んで花実が咲くものか。山有れば柴に困りはせぬ』と。

しかし、日本人はもちろん長寿になるのは素晴らしいことですが、50 歳 60 歳までしか生きられなくてもかまいません。楽しければそれでいいです。木の棒と同じように短くてもかまわないけれど、太くなければ駄目です。もしどの日本人も毎日地震や台風や火山噴火といった自然災害のことばかり考えていたら、どうして生活してられるでしょう。毎日このような事を考えてびくびくしているなら、思いきって何も考えない方がいいです。今日と明日を比べてみたら、今日の方が大切で、手段と目的を比べてみたら、目的が全てです。彼らは仕事を始めると仕事以外のものは忘れることが出来、遊び出したら夢中で遊ぶのです。





## 『外国人の私に対する日本生活』

リュウ コクトウ  
柳 克東（中国・遼寧省出身）

皆さん、こんにちは。リュウ コクトウと申します。中国の遼寧省からまいりました。自分の故郷と言えば、少数民族の多く住んでいる地域で、中国東北地方の文化の中心とも言われています。今日は、外国人の私に対する日本生活について話したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

日本に来てまだ 1 ヶ月も経っていない時はバイトとして、仕事を始めましたが、新人として入ったばかりの頃は日本語学習だけで精いっぱいでした。日本語がうまくできなくて、友達に頼り助けてもらっていました。日本語の表現で分かりにくいものがたくさんありました。お店の人に「かしこまりました」、と言われ、何に困っているのかわからず困りました! 「お茶でもいかがでしょうか」と言われた時は、「お茶はいくらでしょうか?」と値段を聞かれたと間違えて思い、なぜ私にお茶の値段を聞いているのか不思議でした。また一つの言葉にも意味を表すために色々な言い方があります。日本人の友達に「ゴミ投げてきて」と言われ、あれ、投げたら散らばってしまうのではないかととまどってしまいました。そのことを経験して、東京では、捨てることを投げるとも言えるということが分かりました。

また日本文化に驚いた多数のエピソードをお話しすることができます。日本は海に囲まれて、海鮮類が豊富です。お米もよく育ちます。ですから、日本では、主食はお米です。魚などの海産物もよく食べます。それに対して、中国は面積が広いので、地方によって、飲食習慣は全然違います。

また日本料理では生のものが多いです。お刺身とか、卵かけご飯とか、生のものがよく見えます。それに、もう一つの特徴として日本の食べ物は季節によって、種類も変わってきます。例えば、秋になると、栗やかぼちゃを使った商品の販売はさかんになり、その時、皆さんもきっと期間限定のアイスやお菓子をよく目にすることがあります。ということから見れば、日本食は旬の素材を生かす料理が多く、健康にいいということも多分日本人はなぜ長生きかの理由にもなるでしょう。

日本で生活し、母国との異なる文化や言語の違い、日本の文化について外国人の視点から 見ることによって、私達外国人には当たり前になっていたことも日本人にとっては日本の固有の文化として捉えられていることを知り、改めて文化の違いを考えることが出来ました。一見似ているところがたくさんありますが、違う部分も結構あります。自分自身もそれがものすごく面白いと思い、これからの日本生活でも、いろいろな発見をできるように、異文化の壁を乗り越えながら頑張っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。ご清聴ありがとうございました!





## 『漢字でつながる日中文化の絆』

ヨウ チョウキョウ

楊 兆興（中国・黒竜江省出身）

みなさん、こんにちは、中国の黒竜江省から参りましたヨウ チョウキョウです。今年は 17 歳で、今は新小岩の知恵塾で日本語を勉強しています。本日のスピーチ大会に参加できて、本当にうれしいです。私のスピーチテーマは漢字でつながる日中文化の絆です。どうぞよろしくお願いいたします。

我々中国人が日本語を勉強する時に、漢字文化ということはとても有利に働きます。漢字の内容を見るだけでおおよその意味が理解できますし、相手に伝えるときも漢字を使えばある程度話も通じます。最初自分も不思議だと思いましたが、日本語を習っているうちに、なんとなくその理由が分かってきます。

歴史にさかのぼってみると、昔からの日本は中国の漢字文化を取り入れながら自国の文化を発展させてきたと考えられています。例を挙げてみると、最初日本語は漢字を使って表記されてきたということをよく知られています。今でも、漢字で表記することは日本語で動かない地位を占めています。ここから見れば、日本語の漢字はもともと中国から日本に伝わったものであるように見えます。

しかし、明治維新後、日本人は西洋文明に影響され、漢字からひらがな、カタカナを沢山つくり、今までの漢字を組み合わせて多くの言葉を生み出し、中国への逆輸入を始めました。例えば、中国で今まで広く使われている「経済」、「政治」、「法律」など言葉はその時こそ取り入れられたものらしいです。そういった単語は和製漢語と呼ばれ、その中、直接そのままに取り入れられる言葉もあれば、訳してから使われる言葉もあります。

異文化の中にも同文化もあります。それは漢字に限らず、あらゆる面で日本文化の中に中国文化が浸透していることや逆に日本が影響を与え、現在も中国の中に根付いているものも色々あると思います。正しくそれは異なる文化のぶつかりや絆とも言えるでしょう。

特に日中交流の絆が益々深まる現代社会では、相互の文化を尊重し、安心して共生できる環境を作ることが重要になってきています。外国人の我々もそれを常に意識しながら、日中友好関係を築くことを目標として掲げるべきだと考えております。

将来自分自身も、言葉や異文化理解の視点で、お互い助け合える精神を持ち続け、国籍や人種を超えて、一人ひとりが心豊かに生きる社会の構築を目指して頑張ります。

以上です。ご清聴ありがとうございました！





## 『自分の国と異なる食文化』

リュウ シケツ  
劉 梓傑（中国・福建省出身）

皆さんこんにちは 外国語を勉強することに興味を持っているリュウ シケツです。

ここにいらっしゃる外国人の皆さんが日本に来ることを決めたきっかけは何ですか。おそらくそれは気楽な話ではないでしょう。今日は、私が始めて日本に来た時に感じた、自国と異なる食文化についての話をしようと思います。

私は 4 年ぐらい前に日本に来ました、日本に来る前、同じアジアの国である日本と中国とは文化は殆ど変わらないかもしれないと想像していました。しかし、実際に日本に着いた時、初めて日本に来る私にとっては、日本の食べ物も、日本の文化も、日本の景色も、見かけるものの全てが驚きの対象です、その中で一番不思議 なことに、卵を生で食べることです。

卵を使った料理の中で日本人に強い人気があるのは卵かけご飯ですね、皆さんもきっと一度は食べたことがあるでしょう。卵を割ってお米をよく混ぜ合わせ、醤油をちょっと入れるだけで、温かいご飯の上にかければ出来上がり、とても手軽で美味しい上、何度食べても飽きない料理だと考える日本人も多いですね。それに対して、中国では、逆に卵を焼いたり、ゆでたりして、色んな料理に使うことが多く見られています。一度も卵を生のまま で食べたことがない私にとって、最初はどうしても抵抗があって食べる勇気がありませんでしたけれども、そのあとはまた何回も試しに食べてみたら、意外に旨味が出ると感じ、思いつかないほど奇妙な食べ方だと思います。

今思い出したその頃のことはおそらく異文化でしょう。特に人種や国籍の差別が広く存在している現代社会では、違う文化があろうと、違う肌色をもとうと同じ人間の立場として分かち合える気分があるはずですが、理想的に言うかもしれませんが、人類が平和に共存していく上で、異なる文化に対する寛容な態度を持ち、多文化共生の視点で問題を円満に解決していけるよういつも願っています。

異文化の輝きを、分かち合える気持ちを多くの人に伝え、偏見や差別を解消し、世界中の国々の友情を深めるためにささやかながら力を尽くしていきたいと思っています。

以上です。ご清聴ありがとうございました！





## 『ねこのはなし』

ヤン キョン エ  
梁 慶 愛 (韓国・ソウル市出身)

私は、今年 70 才になる ヤンキョンエと申します。韓国から日本に来て 7 年が経ちました。

はじめは、日常生活に慣れるまで時間が少しかかりました。たとえば、韓国では車の運転席は左側ですが、日本では右側です。また、電車の乗り降りにも戸惑いがありました。韓国では同じホームに着く電車は、同じ路線に限られています。だから、乗り過ぎしても降りた駅の反対ホームで電車に乗れば、必ず元に戻ることができます。でも日本は、ホームが同じでも行先が違ったりと複雑で、とても難しいです。私も間違っって乗ったことがあります。

さらに、毎日話す日本語にも行き詰りを感じるようになりました。年齢的にも勉強してもすぐに忘れてしまうし、日本人と話す機会そのものが少なかったからです。そんな時、日本語の会「いろは」を見つけて通うようになりました。毎週行くうちに友達もできて、本当にお世話になりました。ところが・・・2 年 8 カ月前にコロナが流行り始めて、教室が閉じてしまいました。韓国の家族も日本に来ることができず、とても悲しい思いでした。

そんなコロナ禍に入る 1 年前のことです。

うちにのらネコの赤ちゃんが来るようになりました。毎日来るので「チビ」と名前を付けました。ある時 2 階のベランダでチビが日なたぼっこをしているのを見かけ、その日からエサを 2 階の部屋であげるようになりました。いつも「チビ！」と呼ぶと、遠くにいても 1 回から木登りをしてベランダに来ます。

ここで、チビのエピソードをお話します。

チビは赤ちゃんの頃は自宅前でいろんな人たちに遊んでもらう人気者でした。チビはなぜか犬が好きで、犬が自宅前を通ると自分から犬によって行きます。でも遊んではもらえません。

動物病院に連れていく時はわかるようで、毎回ごねて逃げようとして大変です。それでも病院では、おとなしくしています。

これまで一番怖かったことがあります。チビがまだ子どもの頃、私に着いてきて大きな道路を渡って来たことです。何もなく無事に私の元へ来てくれて、本当に良かったです。これは神様が守ってくれたおかげだと思います。エピソードはここまでです。

ところで、私は日本に来て驚いたひとつが、招き猫です。いろんな場所で招き猫を見かけますし、私の家にもあります。韓国には招き猫はいませんし、動物が福を呼ぶという考え方はありません。招き猫が福を呼ぶように、私達家族はチビのおかげでコロナにも負けず、毎日楽しい日々を送って本当に幸せです。チビ、ありがとう！

これで私のスピーチは終わりです。みなさんありがとうございました。

